

## 重点品目野菜について病害虫の予防徹底を図りましょう！

### ☆ 白ねぎ ☆

予防の時期	対象病害虫	農薬名	散布量	使用時期・回数
7月上旬 土寄せ前	ネギハモグリバエ ネギアザミウマ	ダントツ粒剤	3～6kg/10a	収穫3日前まで
	ネダニ類	※2回目の使用	6kg/10a	4回以内
	軟腐病	オリゼメート粒剤 ※2回目の使用	6kg/10a	収穫30日前まで 2回以内
	白絹病 さび病 べと病	ユニフォーム粒剤	9kg/10a	収穫45日前まで 1回以内

※ユニフォーム粒剤使用の場合、同じ成分のためアミスター20フロアブルの使用回数4回⇒3回

※梅雨での根痛みの回復に努めるため「ホスプラス」1,000倍液を散布して下さい。

**！注意！** 土寄せは、気温が下がっている朝に行ってください。

**！注意！** 7月中旬からの最高気温が30℃を超えるような時期には土寄せはしないで下さい！（軟腐対策）

#### （雑草対策）

7月上旬の土寄せ後、**高温時は土をなるべくかまいたくありません。（軟腐対策）**よって除草剤を使用して雑草発生を抑えてください。しかし、ネギの周りの草が生い茂ると軟腐病や害虫の発生が多くなります。草が小さいうちにネギの根を傷めないように草削りを行ってください。

予防の時期	除草種類	農薬名	希釈倍率/散布量/使用回数
7月上旬 土寄せ後	一年生雑草 雑草発芽前	トレファノサイド乳剤	10a当たり薬剤 200～300mL/水1000 収穫30日前まで 2回以内 ※土寄せ後等、草が無い状態で使用

**使用のポイント** 土壌に湿り気がある時の散布が効果的です。乾燥圃場では効果が薄いです。

### ☆ ナス ☆

予防の時期	対象病害虫	農薬名	希釈倍率	使用時期・回数
6月下旬～ 7月上旬	ハダニ類 ヨトウムシ アザミウマ類	コテツフロアブル <b>劇物</b>	2,000倍	収穫前日まで 4回以内
	褐色腐敗病 すすかび病	プロポーズ顆粒水和剤	1,000倍	収穫前日まで 4回以内

混用  
可能

※葉色が悪い時は「トミー液肥」300倍を混用して下さい。

※花が落ちる場合は「ホスプラス」1,000倍液を散布して下さい。

**！注意！** 梅雨明け後、乾燥しないように通路にかん水を行いましょう。時間帯:夕方涼しくなつてから。

**！注意！** 日焼果防止のため黒マルチの上に敷き藁(草)等行ってください。

☆ ミニトマト ☆

予防の時期	対象病害虫	農薬名	希釈倍率	使用時期・回数
6月下旬～ 7月上旬	アブラムシ類 コナジラミ類	ダントツ水溶剤	2,000倍～ 4,000倍	収穫前日まで 3回以内
	ハモグリバエ類		2,000倍	
	すすかび病 うどんこ病	トリフミン水和剤	3,000倍	収穫前日まで 5回以内
	葉かび病		3,000倍～ 5,000倍	

混用可能

※ここ数年「すすかび病」が多く発生しています。予防の徹底をお願いします。

※尻腐れ(カルシウム欠乏症状)予防のため、カルシウム剤(カキパック)を定期的に散布してください。農薬散布時に混用も可能です。

※梅雨明けから盆明けごろまで、遮光資材利用し、比較的単価が高い9月出荷を目指しましょう。7月の花が9月に実になります。樹勢を維持して9月にたくさん収穫しましょう。

☆ ピーマン ☆

予防の時期	対象病害虫	農薬名	希釈倍率	使用時期・回数
7月上旬～ 7月下旬	アザミウマ類 オオタバコガ コナジラミ類 チャノコホコリダニ ハダニ類	グレーシア乳剤	2,000倍	収穫前日まで 2回以内

※尻腐れ(カルシウム欠乏症状)予防のためカルシウム剤(カキパック)を定期的に散布してください。農薬散布時に混用も可能です。

※雨が多い時期はへたの部分の傷みに注意して出荷をお願いします。

※あまり実を大きく収穫せず、こまめな収穫をお願いします。

※乾燥時に注意！こまめに灌水を！！

○散布については、使用時期、使用方法を守り、予防的防除を心がけましょう。